

「密室の祈り」 (2025. 5. 18)

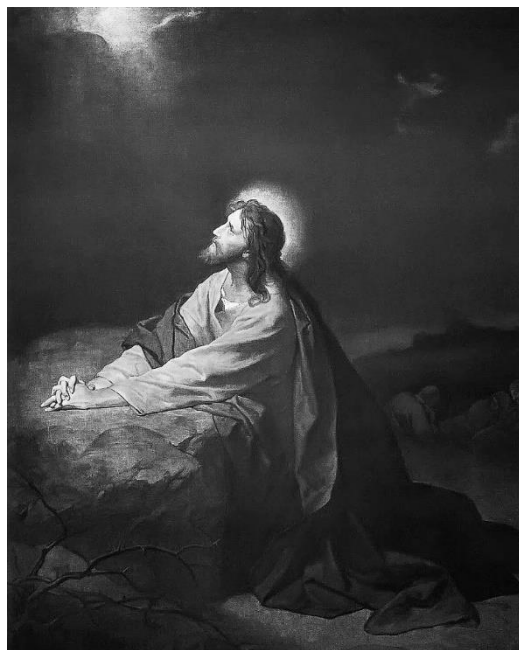
だから、あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、

隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、

隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。(マタイ 6:6)

先日『先達に学ぶ』(島隆三編著：日本キリスト教団 ホーリネスの群発行)を読み、しばらく考えさせられた。口を開けば「密室」の重要性を説き、「密室なくして牧師なし」と繰り返し語った牧師が紹介されていた。岡山聖心教会の初代牧師・永倉義雄師である。確かに牧師は説教し、祈りをささげ、常に会衆の目を意識して振舞う。そしてその習慣が知らず知らずに染み込んでしまう。

イエス様は、祈る時に心がけるべきことを教えられた。上掲の御言葉である。密室の祈りである。神との1対1の交わりである。偽善者は人に見てもらおうと、会堂や大通りの角に立って祈りたがるが、すでに報いを受けている。あなたは密室に入り、隠れたところにおられる神に、あなたの



の隠れている思いを打ち明けなさい、と。私にも常に偽善性が付きまとう。それゆえ、ゲッセマネの主に倣い、ただ独り神に向き合って生きる「単独者」に常に立ち帰る、これは私を含め、信仰者すべてが心がけるべきことと思う。

2025年度の年度聖句は「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」(マタイ 11:28)である。また、派遣の御言葉は「主に望みを置く人は失望に終わることはない」「主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。」と続く。目覚めの時、眠りの時、あるいは不安を感じる時、いつもそばにいるイエス様に独り向き合い、心にみ言葉を響かせたい。そして、聖霊がみ言葉に働き、信じたみ言葉の通りに造り変えられる経験を積み重ねたいと思う。

祈り合うこと、早天祈祷、大切である。同時に密室の祈りも忘れてはいけない。